全国高等学校情報教育研究会

in 専修大学生田キャンパス

2016/08/09

震災時の情報で考える メディア・リテラシー教育 の実践と考察

稲垣 俊介
INAGAKI Shunsuke

東京都立江北高等学校／東北大学大学院情報科学研究科

Tokyo Metropolitan Kohoku High School
Graduate School of Information Sciences (GSIS), Tohoku University

稲垣 俊介　INAGAKI,Shunsuke

●東京都立江北高等学校情報科主任教諭

●法務省 法教育推進協議会 教材作成部会 委員

●東北大学大学院情報科学研究科博士後期課程 Ｄ２

●情報教育，特に情報モラル教育に関する
普及啓発を行っています

発表の流れ

本発表の概要

１．問題の所在

２．実践の方法

３．実践の内容

４．まとめと今後の課題

本発表の概要

本発表の概要：主旨１

- 多くの高校生がネット環境を携行する時代になった
- このような時代だからこそ震災が起きるとネット上では情報は氾濫する
- 現在の高校生は玉石混交の情報がある中で，情報を見きわめることが求められる

本発表の概要：主旨２

- 情報を見きわめるためにメディア・リテラシー能力が必要であると考えた
- メディア・リテラシーの意識化とその能力向上をはかる実践を高校の情報で取り扱った
- 本発表は現状の問題提起と教育実践と考察のまとめである

１．はじめに

1.1.問題の所在

1995年
阪神淡路
大震災

→

2011年
東日本
大震災

→

2016年
熊本
地震

普及していない

7.2%

93.6%
2015年度データ

総務省(2016)　平成27年度情報通信白書

1.1.問題の所在

メディア・リテラシー教育

1.3.～1.2.
学習指導要領とメディア・リテラシーの定義

■　社会と情報
情報の信頼性、信憑性を評価する方法C

■　情報の科学
情報社会で生活する人間に配慮する態度

メディア・リテラシー教育

震災情報から考える

文部科学省(2010)高等学校学習指導要領解説情報編
中橋雄(2014)メディア・リテラシー論　北樹出版

２．実践方法

2.実践方法

2016年4月
東京都立高等学校3年生308名

- 情報を見きわめることがなぜ大切なのかを理解し，その能力を高める契機となる

  - 生徒間で議論し検討
  - プレゼンテーションを作成し発表

３．　実践内容と生徒の反応

震災の情報から考える

情報をしっかり受け取るために

拡散希望

熊本市内の〇〇マンションに閉じ込められている子犬がいるらしい。
すぐに救助をお願いしてほしい。

住所
郵便番号〒〇〇〇ー〇〇〇〇
熊本市〇〇町１丁目12–34〇〇ビル

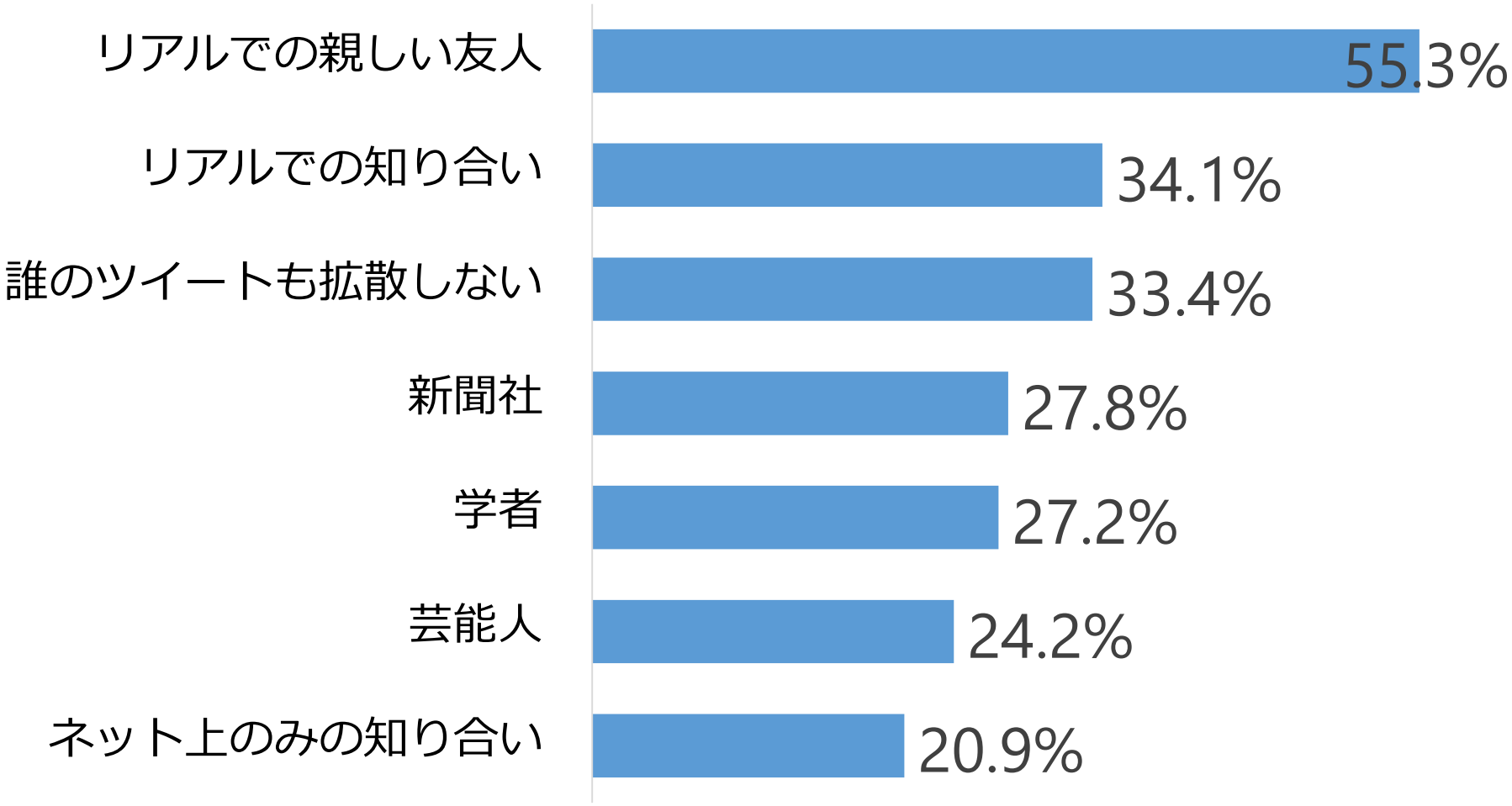
投稿した相手が誰であるか

- 学者？
- 芸能人？
- 新聞社？
- 親しい友人？
- 知っている人？
- ネット上の
  知っている人？

問１
さあ，あなたは
誰であれば拡散しますか？

自分で判断をしてみよう

2.実践内容


リアルでの親しい友人
55.3%
リアルでの知り合い
34.1%
誰のツイートも拡散しない
33.4%
新聞社
27.8%
学者
27.2%
芸能人
24.2%
ネット上のみの知り合い
20.9%

拡散したら／しなかったら
どうなると予想ができますか？

2.実践内容

拡散したら

●子犬は助かるかも知れない

●誰かに迷惑をかけるかも知れない

拡散しなかったら

●子犬は助からないかも知れない

●誰にも迷惑をかけないで済むかも知れない

その情報が

正しいのか
間違っているのか

どこで見分ければよいか
考えてみよう

【拡散希望】

熊本市内の〇〇マンションに閉じ込められている子犬がいるらしい。
すぐに救助をお願いしてほしい。

住所
郵便番号〒〇〇〇ー〇〇〇〇
熊本市〇〇町１丁目12–34　〇〇ビル

2.実践内容

熊本市内の〇〇マンションに
れている子犬がいる**らしい**

「らしい」
が怪しい

すぐに救助を**お願いしてほしい**

自分で救助を
求めるはずだ

住所
郵便番号〒〇〇〇ー〇〇〇
熊本市〇〇町１丁目12−34　〇〇ビル

【拡散希望

善意
なのか？

発信源は
どこだ？

熊本市内の〇〇マンションに閉じ込められている子犬がいるらしい。
すぐに救助をお願いしてほしい。

いつの
情報か？

住所
郵便番号〒〇〇〇ー〇〇〇
熊本市〇〇町１丁目12–34　〇〇ビル

その情報が正しいと
どうしたら分かるのか？

- 情報源が明確になっているかどうか
- 他の方法でも調べられるか，さまざまなメディアで確かめてみたか
- 間違っていたら誰が責任を取るのか

情報の見きわめかた

事実と個人的な意見がごっちゃになってないか

問２

**〇〇ちゃんは怒った顔して、
こっそり教室を出て行ったよ。
感じ悪いね～。**

●事実

●個人的な意見

であると
思うところを書きだしてみよう

切り分けて文章を検討しよう

- ○○ちゃんは　教室を出て行ったよ。
- 怒ってこっそり出て行ったように，私には思えたよ。

それは私がそう感じただけかもしれないし，本当に怒ってたかどうかはわからないよ。

問３

情報を見きわめるために
大切なことは何であると
考えますか？

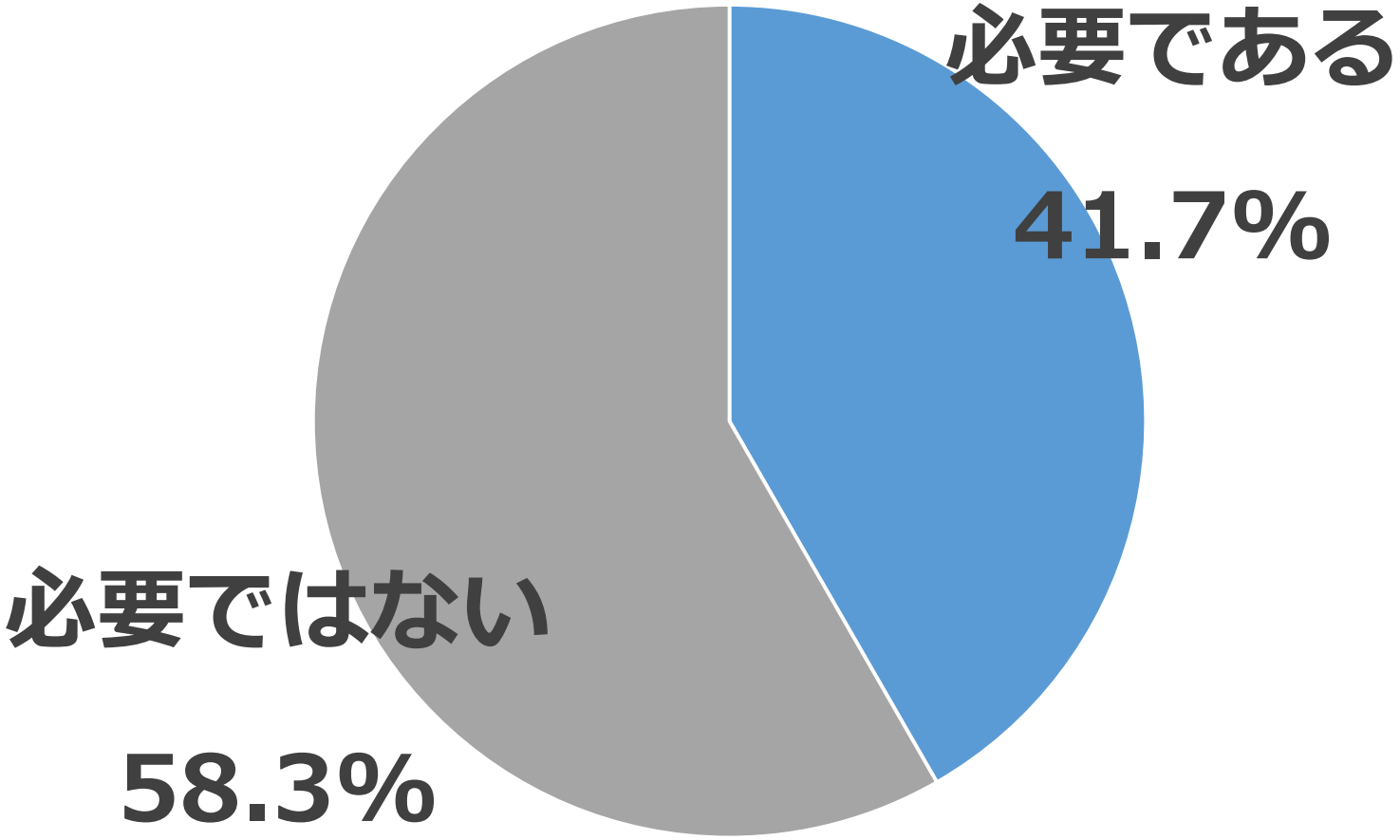
問４

あなたは震災時に情報を拡散（リツイート）することが必要であると考えますか。

他者の意見も入れて考え

発表しましょう。

2.実践内容



2.実践内容

必要である

- 情報は少なくて困るよりも、できるだけあったほうがいい
- 情報の見きわめをしてリツイートすれば、本当に困っている人を助けることができる
- 事実である可能性が少しでもあれば、助かる命なのだから信じるべきだ

必要でない

- 実はその情報が古く間違えた情報であった時に迷惑がかかるかもしれない
- 物資が届きすぎてしまったという事実があるときいており、震災時にはそのような無駄は許されない
- 自分のツイートによって助かる人は少数であり、そのリツイートによって混乱する被災者は多数であるから
- そのリツイートによって、他のツイートの信頼性まで失うのではないか

情報の見きわめかた

情報は

- すぐ決めつけない
- 事実であるか
  それとも個人的な意見であるか
- 違う見方をする
- 伝えられていないことを考える

正しい情報なら
拡散してもいいと思う？

今日は卒業式でしたっ！

正しい情報であっても・・・

- 迷惑になる場合もある
- 不特定多数に見られる可能性による責任がある
- 拡散したら回収できないかもしれない
- 肖像権を検討する必要性

デマツイートは犯罪になることもありうる

熊本地震では
実際にこんな投稿があった

[redacted]

フォロー

おいふざけんな、地震のせいで
うちの近くの動物園からライオン放たれたんだが
熊本

[redacted]032

フォローする

やばいっす！！ クレアも火災ですよ
pic.twitter.com/giM9K2x08M

返信 リツイート いいね 2016.04.14 22:33

拡散が罪になることもある

デマを書き込んだ人は

「名誉毀損罪」「業務妨害罪」
などの罪に問われる可能性もある

損害賠償請求を
される可能性もある

リツイートで拡散した人も
本人から「名誉毀損」で訴えられ，民法上の損害賠償責任を負う可能性がある

関係者に多大な
迷惑をかける

情報の見きわめかた

情報は

- すぐ決めつけない
- 事実であるか
  それとも個人的な意見であるか
- 違う見方をする
- 伝えられていないことを考える

ツイッター「＃救助」
の使い方を
知っていますか

ツイッターハッシュタグ「＃救助」

使用方法

1. 具体的に状況を説明してツイート
   （例：場所、氏名、人数、状態、要請内容等）
2. ハッシュタグ「＃救助」をつける
3. 位置情報をつける
   （より正確な位置情報の通報が可能となるため）
4. 状況を知らせるためできる限り
   現在いるところの写真を添付する
5. 救助が完了したら速やかにツイートを削除する。

出典.Twitter社「電話が使えない時」に救助を要請する手段
https://support.twitter.com/articles/20170080#

発見した人が行うこと

1. ツイッターで被災者（＃救助タグを使った人）と連絡をとって状況確認をする
2. 代理で電話で１１９などに救助要請をする

発見した人が行ってはいけないこと

1. むやみに「救助」タグを使わない
2. 「救助」タグを拡散しない

出典.Twitter社「電話が使えない時」に救助を要請する手段
https://support.twitter.com/articles/20170080#

- 情報は情報にすぎない
- あなたの経験ではない

文字によって
発信された情報は
人が構成・編集したもの

しかし
９９の嘘の情報があっても
１の真実で助かる命がある

だから

情報を見きわめ
しっかり受け取ることが
大切なのではないか

ネットの投稿・発信は便利であり必要なこと

情報化社会を生きる私たちは

情報を受け取った時に
情報を送る時に
どう行動していくべきなのか

考えてみよう

さあ，どうしますか？

【拡散希望】

参考文献

- 下村健一，10代からの情報キャッチボール入門――使えるメディア・リテラシー，岩波書店，2015
- Twitter社，「電話が使えない時」に救助を要請する手段 https://support.twitter.com/articles/20170080#

４．まとめと今後の課題

４．まとめと今後の課題

授業の実践後に生徒に感想や意見を自由記述として書かせた。

自由記述
拡散をするときには一呼吸おいて、本当に拡散してよいか考えてから拡散する

情報の信憑性や信頼性を評価して発信することが今後できるのではないかと期待できる。

自由記述
情報を発信する際には、自身が良い情報であると考えたとしても、すべての人にそう思ってもらえるとは限らないとわかった

情報社会で生活する人間に配慮する態度とは何かを考える契機とすることができたと考えた。

４．まとめと今後の課題

本実践は**学習指導要領**、
さらに**メディア・リテラシーの定義**に則った能力を
育成する実践をした。

現在はネットを中心とした、様々なメディアがあり、そこに**玉石混交な情報が氾濫**しているからこそ、
メディア・リテラシー能力は情報社会で生きるために必要な能力となった。

情報社会を生きる生徒のために、**メディア・リテラシーを育むことは情報を教える教師の役割**と考え
今後もメディア・リテラシー教育を続けていく。

全国高等学校情報教育研究会

in 専修大学生田キャンパス

2016/08/09

鳥取県教育委員会専任講師の今度珠美先生にご協力いただき，作成した教材です。
またこちらの実践はi-Net9月号に掲載されます。

- 文部科学省(2010)　高等学校学習指導要領解説情報編
- 内閣府(2016)　青少年のインターネット利用環境実態調査
- 中橋雄(2014)　メディア・リテラシー論　北樹出版
- 下村健一(2015)　10代からの情報キャッチボール入門――使えるメディア・リテラシー　岩波書店
- Twitter社　(最終アクセス日2016.6.30)
  「電話が使えない時」に救助を要請する手段　https://support.twitter.com/articles/20170080#

震災時の情報で考える
メディア・リテラシー教育の実践と考察

稲垣 俊介
INAGAKI Shunsuke
東京都立江北高等学校／東北大学大学院情報科学研究科

Tokyo Metropolitan Kohoku High School
Graduate School of Information Sciences (GSIS), Tohoku University